

每月刊行

西洋雜誌 三卷

江門開物社



定價貳角

17
82
3



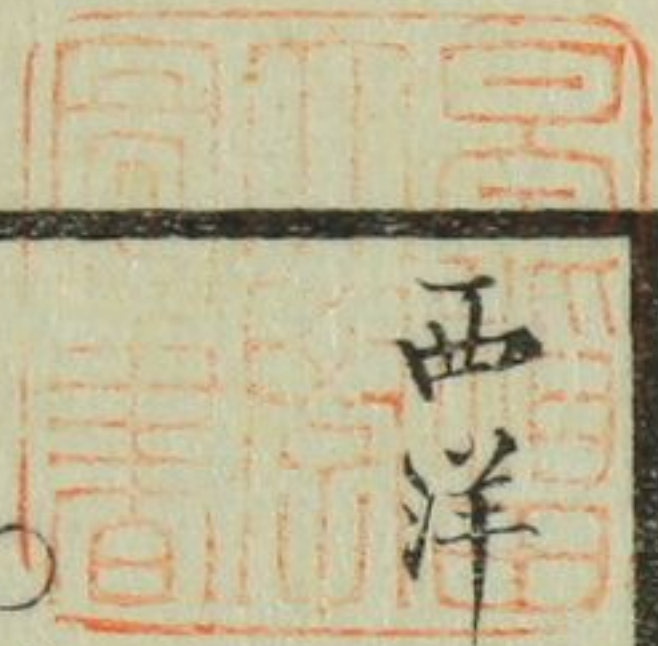
1874
82
3

西洋雜誌卷三

楊江学人集刻

○萬國曆元考略

本年^{丁卯}十二月七日也。西洋諸國の一
千八百六十八年第一月一日より。才
口^{イタリヤ}國よりハ尚^{シユ}前年の十二月廿日
子^{ジュ}あり。猶^{シユ}太^テ曆よりハ五千六百廿
八年五月朔日あり。回^{クハ}る曆よりハ



卷

三

一

卯丁

一千二百八十四年九月二日。此諸國
年數并に曆法の異同を考證す
る。曆元考の一書を著せしむる也。
冗長にして急ぎ校刻の事を果
てべくもあらず。然るに少年子弟は
其草稿を觀んことを求む者少くは
し。是以て爰に其大略を抄出さし上
るを以てしむるなり。

西洋曆の紀元一千八百幾年といふ年數を
開闢の時よりかぞへざるはあらず。西洋諸
國の教祖ある契督キリストといはるる人は生誕の年
よりかぞへし數なり。勿論其年より元年
と稱しむるはあらず。五百三十餘年の後。
我國 繼体天皇の御宇に於て。其古より
さうのありて。紀元幾年と稱する事も成
りしとぞ。お其紀元は初年と。我國よりハ

垂仁天皇三十年辛酉。唐古よりハ漢の平
 帝元始元年子何也。此紀元を立ざりし
 前々。各各皆紀年の名目異しし。或ハ太
 古開闢よりいふ。或ハ其玉の始祖即位
 年を初とし。或ハ勝軍或ハ遷都等其年
 を元年といふ故也。法皇紀年をいふは
 其若のなるものを奉れども左に如し
 開闢の年代也。法皇の傳記まらくも

一定せむ。或ハ紀元前四千。四年といふ。方今多
く此説
不従 或ハ五千五百。八年。或ハ五千六百四十二
 年といふ。其他諸説同ども也。太古を書記なき
ゆゑに年曆の
説まらなくあるを 猶太曆ジュデアを曆法の最古き者
万国共之なり といふ。紀元前三千七百六十年を曆元とし。今
 年丁未は九月。何れも其五千六百廿八年は
 正月にあたり。此古曆を和漢の曆法の如く。
 太陰曆より一年の日数三百五十四日。隔

月子大小有り。大の月ハ三十日。小の月ハ廿九日有り。十九年の間ハ七度ハ閏月有り。閏年ハ日数三百八十四日とある。今もも猶太^{ユダヤ}宗門の者ハ此曆法を用るなり。

十九年ハ七閏を置くも。太陰曆の常法も。十九年の間ハ月の盈虧^{ミチカケ}二百三十五次^{タビ}有り。其日数ハ九百三十九日^{或ハ九百四十日}有り。太陽曆の正月元日。太陰曆の正月元日合朔とある。

但し十九年の月数。太陰曆もハ二百三十九ヶ月。太陽曆もハ二百廿八ヶ月なり。太陽曆ハ月輪ハ盈虧^{ウツク}するも地球公運の一周天を一年とす。故に年々春分秋分夏至冬至の日。同日ハ時を置るなり。地球ハ地球一周天ハ日数三百六十五日及四分ハと定むるときハ四年ハ一日の餘分を生じ。故に四年毎に閏年を置く。但し太陰

曆の如く閏月とて一月たりまはるべし。只一日を増すものなり。

は故に春秋二分を及て玉の定日といへども。一日を進退せしむるあり。

西洋古代の曆法を。ナボナサルの曆法といふ。其曆元を今の紀元前七百四十七年を始とす。今年即ち二千六百十四年とある。是エジプト玉。ハルマ玉を用ひ古曆より太陽曆

の權^{ハジテリ}喪なり。但しは曆法一年を三百六十日と定めて閏月無し。故に真の曆法と比すれば百年の間凡廿六日程の差^{タガヒ}分を生ぜざるなり。是ハ世のいづれ開けざるし以てなき也。精算するに玉の事勿福なり。其後紀元前四十五年。我玉 崇神天皇五十二年に至りてローマ國主シリウスセサルといふ人。其時代の大英雄なり。威勢諸國を振ひしむ。

古來は曆法の精容を知らざるを知ら。新に曆法を改めしむ。其時より始めて四年に一閏の法を立つ。然るに此曆法は行はるる間も亦多く誤りウス世を去るしむ。時有人謀る三年毎に閏日を置く。是に依り僅に三十六年の間に十二度の閏あり。既よ二日の差を生ぜり。嗣王オーグスト早く是に心附きて、其差を改む。四年毎に一閏とありきり。かくて此法を随

ふ事一に五百餘年あり。春分亦三月廿日ニ存るべき。亦三月十日ニ在り。其時の教王ゲレゴリウス。此差タガヒ分の起るユエン所以を考ふ。地球公運一周の日數。これまでの曆法よりハ、三百六十五日及四分の一と定められども。詳よこれを言ふ時は、三百六十五日亦四十八分四十九秒あり。其差の不足あるより。積りて十日の差を生ぜり。亦よおつる曆法を改め。

先其年の十月四日の次。十月五日と改む
 べきを。直子十月十日と改む。是より以前
 の差分を復し。尚以後の差を防ぐんが
 為。毎四年一閏の法ハ其す用ひぬが
 才百年に改むる年ハ閏年を。三度と常の
 年と改む。四交はうち一交閏年と改む。
 元禄 一千八百年 寛政
 十三 十二
 一千九百年の如きを。皆閏年と改むるも閏を

置くべし。二千年に改むる一とび閏を置く。又
 二千百年。二千二百年等も閏を置くべし。二
 千四百年に閏を置く。此法に随つて後來を
 考年を経る。差ハ僅に三日に満つるべし。
 依り教十年の旨。もとより改暦に及ぶる
 なり。此新法をグレゴリ暦法と名づけ。其前
 の法をジュリヤン暦法といふなり。即ち此グレ
 ゴリの暦法を改めし。元一千五百八十二

年の事。我國天正十年。西
洋法國今皆ハ新法を用ふといへども。オロ
シヤ國の尚シリヤンの古曆を用ふる故也。他
玉と十二日の差あり。

毎年オロシヤの正月一日を他玉の正月十
三日。他玉の正月一日ハオロシヤの十
二月廿日。故にオロシヤと他國との
往復書翰あぶら。双方の月日を並べ記

も。よ。ん。バ

一千八百六十七年二月十四日

他玉の日

あ。ど。記。ま。が。如。し

オロシヤの日

若し此後子玉も。オロシヤに於て改曆を
きかると。一千九百年以後も。又一日の差を
増し。他玉と十三日づきの差とあぶらし
太陽曆は月の大小も。太陰曆とおなじ
ら。大は月中の月。小の月は三種有て。

大抵月ハ三十一日。中の月ハ三十日。小の月ハ
廿二月ハ二十日。平年ハ廿八日。閏年
ハ廿九日なり。お正月三月五月七月八月
十月十二月ハ七ヶ月ハ皆大。三十一日。四月六月
九月十一月ハ四ヶ月ハ皆中。三十日なり。是ハ
ジュリヤン曆もとも。グレゴリの新曆もとも。是
ありとありし。

お何故ハ二月ハ限りて閏月とせざるやと云

あり。ジュリウスいまだ曆法を改めざりし以前
ハ。今の三月を歳首とし。今の二月を歳尾
とも。是を紀元前七百五十年の頃ロム皇ス
王の定めし不なり。故に二月を一年の末
あり。其月ハ日数残り少くしを以て。是
を閏月とせしなり。此故に今ハ九月十月
十二月までの月の名ハ。實に今を以て
七月八月九月十月ハ義なり。是を古名

をそのまゝ用ふればなり

因ナキに西洋十二月の月名を注解し

月ハゼニスエリーも。ゼニス神は祭を司る月
なり。ゼニスも歳を司る神なり

二へブリエリーも。清潔齋戒の義より此
なる名なり

ハニケ月の名も。ロムルス王の時代より
此名なり

三マルチも。軍神マルスの名より出づ

四エプリルも。エフロヂスと名くる女神の名
より轉ん。エフロヂスも。エーニス神は一
名より。此神極めて美麗なり。愛敬
を司るとしり

五メイも。女神マヤの名より出づ。マヤもメ
ルキリス神は母なり。メルキリスも商
賣繁昌の神なり

六 ジニール。女神ジノル名より出づ。

右六ヶ月は名。いづれも昔の諸神は名
よりおろるものなり。蓋し其月子其
祭ありしなり。

七 ジリール。改暦は名を移す。
の王

ジリウス以前は月をキンチリスと
名く。亦五月の義なり。

八 オーグスト。ジリウスの嗣王は名なり。

是し昔ハセキスチーリスと名く。亦六月
の義なり。

九 セプテムブル。亦七月の義

十 オクトブル。亦八月の義

十一 ノヘムブル。亦九月の義

十二 デセムブル。亦十月の義なり

九月以下。名実相合せざる事ハ前々
いへり如し。尚^フ四^ク 曆法印度曆法等

此説を奉長々ねども。卷四に續出
べし

○アメリカ合衆國大統領年譜

初代

ゼオルジワシントン

享保十七年生 寛政元年
大統領となり在職八年

寛政九年職を辞し 寛政十一年没

二

ジョージアダムス

寛政九年より享和元年
まで

三

トーマスゼツヘルソン

享和元より文化六まで

四

ゼームスマディソン

文化六より十四まで

五

ゼームスモンロー

文化十四より文政八まで

六

ジョージワシントン、アダムス

文政八より十二まで

漢訳小阿丹士

七 アンドレウゼキソン

文政十二より天保八まで

八 マルチン、スズ、ビュローレン

天保八より十二まで

九 井ルム、ハルリウシ

在職僅一月して没

十 ジョワン、タイレル

天保十二より弘化二まで

十一 ゼームス、カ、ホルク

弘化二より嘉永二まで

十二 サヤリ、タイロル

嘉永二より三まで

十三 ミルラルド、ヒルモール

嘉永三より六まで

此代より始めて使節で、テウ、セ、ペルリ
を日本に遣はる

十四 フラシクリン、ピールセ

嘉永六より安政四まで

十五 ブカナシ

安政四より文久元まで

十六 アブラハム、リンコルン

文久元より慶應二まで

此代より、三十四國の内十ヶ國叛きて
自主し、ゼキソン、デ弁スを立て、南方の

大領領とん。是に於て南北二部に分
き。四ヶ年の間戦争有り。去慶應二年
北部勝利を以て一筋に併しリン
コルンを刺客の爲に弑せられたる

十七
ジヨソソソ

享應二年より

○医家より用るヒル棋の考

医家より棋を用ひて血を吸てしむる也。

大人小兒共に通用すべき良法あり。約るに
西洋医書を閲するに。用る棋の數甚少し。小
兒ハ一條二條子過ることなく。大人と之も。
六條八條乃至十二條を越るることハ極めて
稀なり。然るに此方より試みるに。棋の吸ふ血
量甚少くして功を成するは是より。故に
増して數十條子取りて始めて功を成る
事と云ふべくしれあり。是医家の常より疑

西医常用

蟻の真形

は蟻血を

吸ふときハ

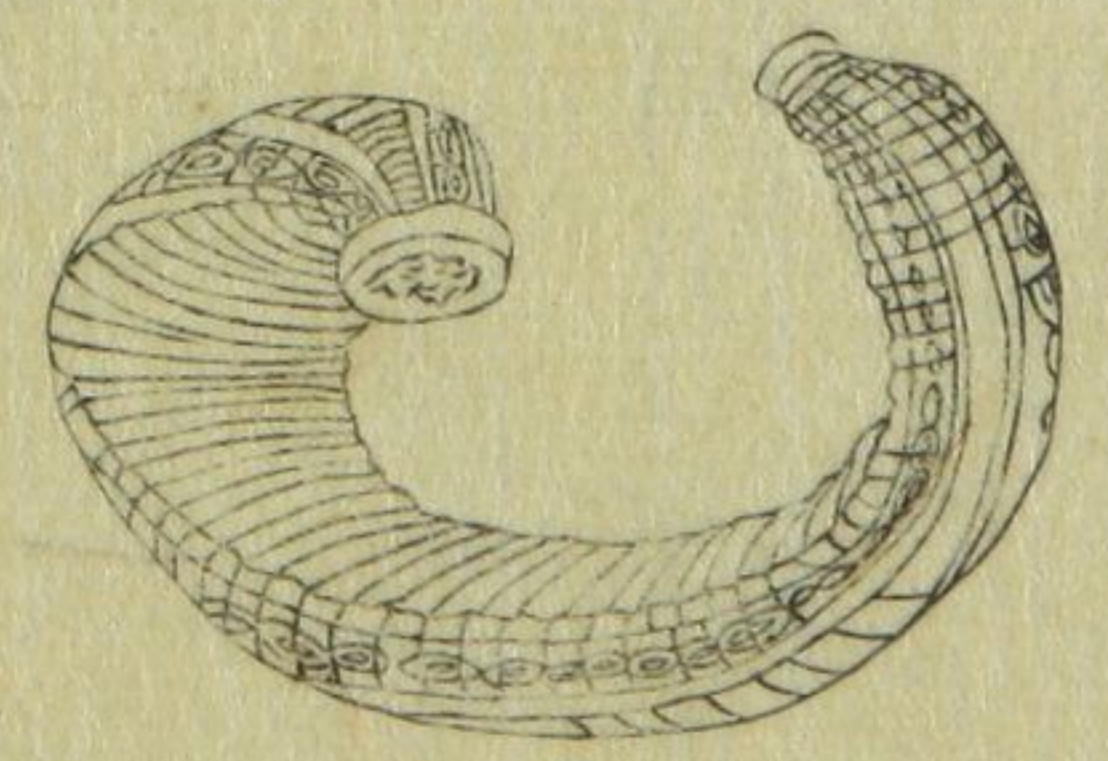
痛を覚ゆ

血を吸ふ度

甚多し



生する時の大き



死する時の

を存する所なり。彼を今冬友人田中芳男
 フランス國の博識會より得り。彼は医家常
 用の蟻を携へ來り。形を全く此方の物
 と同じくれども。大き遙に異なり。右の
 圖の如し。其吸ふ所の血量多きこと論を
 ますべし。知るべし。余一見多年の疑
 を消し。喜甚堪ふ。輒ち此を附記し。
 田中芳男云。和産も西洋種の如

き棋多き子ありん。然れども甚稀し
て常用子供もろよ是とん。常用の者
を同種より小きものなり。別よりヒル
の名あれども。血を吸ふても多き者粒
種あり云々。詳あることそ中學術産
の書に就きて知るべし

西洋雜誌卷三

